

PORTICO

vol.32
2018.1



「第16回桜蓮祭を終えて」

桜蓮祭実行委員長 2年生

平成29年11月4日に第16回桜蓮祭を開催しました。本年度のテーマは「輪」～地域を愛し、地域に愛される大学～で、日頃の勉強やサークル活動の成果を地域の方々に見てもらおうと様々な企画を行い各学生団体や教員と共に準備し実施しました。今年度も、スポンサーとなっていた数多くの企業や後援会の皆様のご協力により盛大な学園祭を開催できました。心より御礼申し上げます。

当日はあいにくの雨でしたが、多くの方にお越しいただきました。当大学ならではの企画として、災害看護サークルによるハンドマッサージ、4年生によるバイタルチェック、教員による「知って便利な在宅医療サービス」、「看護大生の簡単おいしいレシピ!みんなのレシピ」などが行われました。少しでも地域の皆様方に学生が学んでいること、頑張っていることを知っていただけたら嬉しく思います。

今年度は「地域の方々楽しんでもらえる学園祭にする」ことに重点を置いて、企画・運営をさせていただきました。そのため、新潟県出身で人気お笑い芸人のおばたのお兄さんに来ていただきました。おなじみ

のネタで会場は大盛り上がりでした。そして、フレアバーテンダーのKEIGOさんには、今年も来場者を魅了する洗練されたパフォーマンスを披露していただきました。また、毎年恒例の献血に加え、骨髄バンクのドナー登録受付も行い、25名の方がドナー登録をしてくださりました。ありがとうございました。今年は二年に一度のMiss NCN Contestも開催しました。各学年の美女による素晴らしいショーでした。そのほかにもバンド、エアロビ、ダンス、よさこい、合唱サークルなどのライブは、多くの方が観賞されていました。他のサークルや事務、外部の企業の方々による模擬店もあり、活気あふれる桜蓮祭となりました。

無事に、予定通りすべての企画を終えることができ安心しております。今後は、来場者の皆様方に書いていただいたアンケートなどを活用し、来年度はより素晴らしい桜蓮祭になるように引き継いでいきたいと思っております。来場して下さった方々、協力して下さった方々本当にありがとうございました。是非、来年も桜蓮祭にお越しください。心よりお待ちしております。

- | | | |
|--|------------------------------------|-------------------|
| 1 桜蓮祭 | 4 実習感想 総合実習
オープンキャンパス | 7 研究室訪問 |
| 2 看護研究発表会 | 5 継燈式 | 8 いきいきサロン
編集後記 |
| 3 実習感想 ふれあい実習
実習感想 基礎看護学実習Ⅱ
実習感想 領域別実習 | 6 学生生活 学生アンケート
学生活動 リレー・フォー・ライフ | |

平成29年度 看護研究 発表会

専門ゼミナールでの学び

4年生

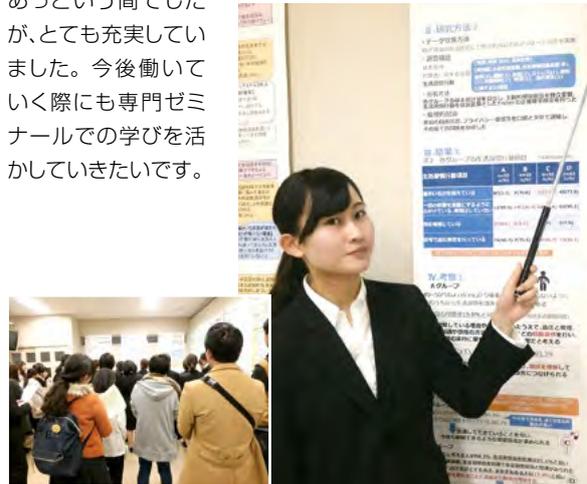
私は、地域看護学ゼミナールに所属しています。地域での生活習慣病予防に関心があり、特定健診を受けた方の生活習慣の実態をテーマに研究をしました。

4月から7月は研究を行うにあたっての計画書を作成しました。自分の明らかにしたい内容、目的を踏まえつつ先行研究を読んで考えることや、データ収集にあたってアンケートの中身をどのようにするか、場所や方法などを具体的に検討することがとても大変でした。

それでも、研究計画書の発表会で学生や先生方から助言をいただき、市の保健師さんなどにご協力いただいて夏休みにデータの収集を行いました。特定健診の結果説明会に何度か足を運び、住民の方々に直接声をかけてご協力いただきました。始めはその場にいるだけでも緊張しましたが、多くの方が足を止めてアンケートに記入してくださいました。具体的な生活習慣についてお話をさけたり、「大学でのサロンでお世話になっているから」と温かい言葉がけをいただいたりと地域での実習とはまた違った貴重な経験となりました。

次に、アンケートの記載内容をエクセルや統計解析ソフトを

使用しながらデータ化し、そのデータを元に結果や考察を書きました。その際に改めて生活習慣を維持・改善していくことの大切さと大変さを感じました。研究論文の提出、発表会まであっという間でしたが、とても充実していました。今後働いていく際にも専門ゼミナールでの学びを活かしていきたいです。



発表会終了直後の一枚

専門ゼミナールで学んだこと

4年生

私は高校生のころから保健師を目指し、4年次の専門ゼミナールでは地域ゼミを選択しました。専門ゼミで行う研究のテーマに迷っていましたが、地元の糸魚川市で起きた大火をきっかけに、災害保健活動に関する研究を行うことに決めました。

研究を行う中で大変だったことは、就職活動や国家試験の勉強と同時に進んでいくことでした。周囲の友人がだんだんと内定をもらっていく中、研究や就職活動などを行っていくことはとても辛かったです。研究は、目的に沿ったインタビューを行い、インタビューの中から情報を抽出し、抽出された情報をカテゴリー化する手順を進めました。カテゴリー化する段階では何回も修正を繰り返し、途中でやめたいことが何度もありました。ですが同じゼミの仲間と一緒に保健師を目指してきた友人、常に真剣に向き合ってくくださる担当の先生のおかげで大変だったことも乗り越えることができました。

辛かったことばかりではなく、ゼミでの飲み会など楽しかったこともありました。また、研究を通して住民の方々の生の声を聴くことで、地域にはどのようなニーズがあるのかを知り、その

ニーズに対して保健師としてどのような支援ができるのかを考える機会となり、住民のニーズに沿った保健師活動の重要性などを学ぶことができました。

私は春からずっと目標にしていた保健師になります。専門ゼミで学んだことを活かし、地域住民の健康づくり活動に取り組んでいきたいと思っています。



発表会に向けて練習中

実習感想

実習感想 ふれあい実習



1年生

私たち1年生は10月2日から5日にかけてふれあい実習に行ってきました。ふれあい実習とは、各地域の方々との交流を通して、その地域の歴史や文化を学んだり、看護に必要な不可欠なコミュニケーション能力を磨くためのものです。

ふれあい実習全体の日程はまず2日に、各地域の自然豊かな場所に赴き、その地域の歴史、文化を肌で感じました。4日は各グループがそれぞれの家庭に赴き、普段できない貴重な体験をしました。5日は地域の方々を招き、学生主催のお楽しみ会を行いました。

5日は地域の方々を招き、学生主催のお楽しみ会を行いました。

ふれあい実習は私たち1年生にとって初めての实習で、期待と不安で胸がいっぱいでした。私たちが緊張している中、地域の方々は気さくに話しかけてくださり、だんだんと緊張もとけ、充実した時間にする事ができました。そして、今まで自分たちが当たり前のようしていたコミュニケーションの本当の難しさを改めて感じました。また、各地域の抱える様々な問題を医療、看護の目線から考え、自分たちに何ができるのか、これからの看護に求められるものは何かについて、一人ひとり考える良い機会になりました。

今回のふれあい実習にご協力していただいたすべての方々への感謝を忘れず、学んだことを今後の大学生活に生かして行きたいと思ひます。

実習感想 基礎看護学実習Ⅱ



2年生

私は、この夏の実習は自分一人だけでは乗り越えられなかったと思ひます。

実習が始まるかなり前から、私は「無事に実習を終えられるだろうか。」と不安に思っていました。それは実習自体が普段の生活とは大きく違い、心身共に負担が大きいと予想されたからです。またそのような状況では友人も満身創痍で、私のフォローをしてくれる余裕まではないだろうなと思われたからです。

そして実際に実習が始まりました。予想していたとおり、病院では慣れないことばかりでした。しかし病棟にいるときでも、学生や先生の顔を見ると安心できました。また、病院から帰り、記録を書くために大学へ

帰ってくると、他の病院から帰ってきた学生が沢山いました。そこでは学生同士で、病院にいるときの緊張感を共感しあったり、看護計画を一緒に考えたりしました。

実習を終えてみたら、私の予想に反して、多くの方から支えてもらっていたことに気づきました。学生からは頼られることもありました。どちらも嬉しかったです。また、普段はあまり関わりのない学生ともお互いに助け合うことができたのも新鮮で嬉しかったです。それから病院スタッフの皆さんや患者さんも、私たち学生が学習しやすい雰囲気を作ってくれたと思ひます。また家族の支えにも助けられました。以上のように沢山の方々に支えていただけたお陰で、無事に実習を乗り切り、多くのことを学ぶことができました。

この実習で私は、自分の周りには力になってくれる人が沢山いて、自分も誰かの力になっている、ということに気づけました。このような恵まれた環境で勉強できていることを忘れず、今後も勉学に励みます。

実習感想 領域別実習



3年生

私たち3年生は9月から1月までの5か月間、領域別実習で様々な患者さんを受け持ちました。特に私は成人看護学実習での経験が印象に残っています。成人看護学実習では患者さんを3週間受け持ち、1、2年生で学んできた知識・技術を統合させ看護計画というものを立てケアを行っていきます。私は看護計画として患者さんの病気に関する気持ちの傾聴を行おうと思ったのですが、実際患者さんと接してみると学生としてどう関わればよいのか、患者さんへの介入の仕方が分からずそのことについてとても悩ましました。しかし、その経験から患者さんの精神面への関わりは傾聴の他に、患者さんの気

持ちの訴えが見られるまで待つことやペースに合わせることも大切であると学ばせて頂きました。

また、実習中は臨床の看護師さんから授業で気づけなかったことや臨床ならではの考えをご指導して頂きました。その中で看護師さんがおっしゃっていた「私たちはいつでも本との闘いだよ」という言葉が印象に残っています。看護は根拠を追求することが大切だということをお教えた言葉です。私は今まで本を開き納得した上で患者さんの状態を考察していましたが手間がかかり遠回りであると思ひしていました。しかしそれは看護師になっても必要なことで私が今やっていることは無駄ではなく、やるべきことなんだと再確認することができました。

この領域別実習では多くの学びがあり指導して下さった先生や看護師さんをはじめ、受け持ちを引き受けて下さった患者さんにとっても感謝しております。この学びを今後の総合実習や研究に活かしていきたいと思ひます。

実習感想 総合実習



4年生

私は4年次の総合実習で在宅看護分野を選択しました。3年生の領域別実習では、病棟で1人の患者様を受け持たせていただき、看護過程を展開することがメインに行われていましたが、今回の総合実習では、病棟と地域医療連携室、訪問看護ステーション、外来の4分野で実習を行わせていただき、病院から地域へと一貫して、統一のとれた看護の提供が必要であるということを知ることができました。病棟と地域医療連携室では退院調

整についての多職種との連携の場面や調整について学び、訪問看護ステーションでは、退院後地域で生活する方々への医療的な支援を行い、在宅生活

を継続していくことができるような支援が必要であると学びを深めることができました。外来では、在宅で生活している人が、通院を通して健康状態の維持ができるような支援の必要性や、外来から入院となる患者様に対しては、外来から病棟への連携や入院時から早期の退院支援を行っていくことの必要性について学びを深めることができました。このように、4分野での実習ができたことにより、看護を行っていく上では病院から地域へと切れ目のない支援を行っていくことが重要であるということ深く考えることができました。この経験を活かして、病院で働いていても、「患者様は退院後、地域で生活していくことになる」ということを視野に入れた看護を提供していけるような看護職になりたいと考えます。

オープン キャンパス

オープンキャンパス2017 報告

8/7(月)、8/21(月)にオープンキャンパス2017を開催しました。「体験学習あり」「体験学習なし」2つのコースを実施、2日間あわせて約600名の方にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。

体験演習(体験学習ありコース)

2日間で7つの分野の体験演習を実施し、看護の中にもいろいろな種類があることを身近に感じていただきました。

全体説明の様子(両コース共通)

教育内容、取得できる資格、入学試験の概要等について説明しました。さらに、卒業生の二人が忙しい仕事の合間に駆けつけ、未来の後輩たちへ熱いエールを送りました。

▼ 卒業生からのメッセージ



▼ 一次救命処置



▼ 妊婦体験



模擬講義(体験学習なしコース)

一足先に大学での講義を体験していただきました。参加者からは「看護のことだけではなくて、看護につながる学問も学ぶことがたくさんあるのだと分かりました」等の感想をいただきました。

▼ 「異文化に向き合うー看護の国際化を踏まえてー」(8/7)



▼ 「染色体・遺伝子について」(8/21)



継燈式

継燈式について

継燈式実行委員長 2年生

学生が主体となって行う本学の継燈式は、継燈式実行委員会のもとで今年度の3月から活動し始めました。例年は平日だった継燈式ですが、今年は保護者にも私たちの姿を見てもらいたいと思い、土曜日に行うことになりました。おかげさまで多くの方にご列席いただきました。

継燈式は、2年生全員で作上げた式だと考えております。2年生全員が継燈式をやることを決意し、式中の曲や当日身につけるコサージュ、灯の受け渡し方、歩き方等の動きに至るまで、すべてアンケートや話し合いによって決めました。実行委員だけでなく、アンケート等からひとりひとりの意見を取り入れることによって、自分達で式を作り上げるといふ決意と責任感を持たせたのだと思います。継燈式が近づくと講義の合間を縫いながら式の流れの確認と練習を行い、継燈式に対する意識を高めていきました。はじめはバラバラだった動きも練習を重ねるごとに息が合っており、揃ってきました。顔つきもどこかたくましく、継燈式を通してひとりひとりが成長できたのかなと感じました。

今思い起こすと、私一人では至らない点が多々あり、同じ学年の仲間をはじめとした先輩、後輩、教職員、来賓の皆様のおかげで継燈式が無事に終わったことを嬉しく思うとともに感謝申し上げます。また、実行委員長としてこの仲間と式をやり遂げたことを誇りに思います。

この継燈式は私たちにとって、看護師を目指すための1つの歩みだと考えています。これまでに培ってきた基礎を忘れることなく、気持ちを引き締め、ひとりひとりが目指す理想の看護師になれるようこれからの学習に臨んでいきます。継燈式で誓った決意を胸に刻み、より一層精進いたしますので、どうか変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



学生生活 学生アンケート



私の大学 お気に入りスポット

普段学生がどのような大学生活を送っているか、その一部をご紹介します。
今回は、『私の大学お気に入りスポット!』として、アンケートを取り156枚集まりました。
協力してくれた学生の皆さん、ありがとうございます!!
下の写真は、ランキングBEST3とランキング外の合わせて4か所です。さて、どれが1位だとおもいますか?答えは…
最終ページ下部にある編集後記を見てくださいね。

A レセプションホール



理由

- いつもみんながいる
- いろんな学年の人と交流できる
- みんなで勉強したり話をしたりできる

など

B グラウンド



理由

- 木が四季によっていろいろな色に変化してきれいだから
- 遊べるから
- 芝生がいい感じ

など

C 食堂、売店



理由

- 美味しいものが食べられる
- 店員さんたちがやさしい
- 落ち着く
- 勉強に集中しやすい

など

D 図書館



理由

- 静かで居心地がいい
- 雰囲気が好き
- 特に2階が落ち着いて集中できる
- 好きな本がたくさんある

など

学生活動

リレー・フォー・ライフ

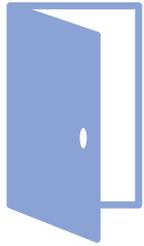
3年生

8月26・27日「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2017にいがた」が開催されました。私たちは26日だけでしたが、県内の看護系大学の学生とともに参加しました。このイベントはがん患者さんとご家族やご友人を支援する目的で行われるチャリティーイベントです。私たちは血圧測定を行いました。

今回はビッグスワンスタジアムの中で行われ、トラックの周りには灯籠が置かれていました。自分たちも灯籠にメッセージを書きました。がん患者さんやその家族が書かれたメッセージは言葉に重みがあって歩いているときに読み、元気づけられました。がん患者さんも多くいましたが、支援者の姿も多く感じました。がん患者さんは長く病気と付き合っていくことになるので、たくさんの支援が必要です。支援が勇気にもなるため、みんなで支え合っているのだなと分かりました。

今回の参加を通して、私たちががん患者さんを支えられるように、もっと勉学に励みたいです。





研究室訪問

みなさん、研究室を訪ねたことはありますか？

さて、今回訪問する研究室はこちら！！



さて、写真のようなキャラクターのペンがある研究室はどこでしょう??これで、どの先生の研究室かわかったあなたは、かなりマニアだと思います。

では、第2ヒントです。

どの先生の研究室わかりましたか？



もうわかりましたね。在宅と書かれている本がありましたね。そう、**地域看護学の「川野研究室」**にお邪魔しています。

では、先生の専門分野から紹介、よりもまずは、先生はキティラーなのかを聞いたところ…

キティラーではないそうです。では、なぜこんなにペンがあるかというと…学会で、研究成果をちゃんと発表できたと思えた時に、学会開催地のご当地ハローキティペンを買ってくるそうです。そして、目標は、全国のハローキティペンを集めることだそうです。全国制覇まで頑張ってください、先生。

では改めて、先生の専門分野を聞こうと思ったのですが、これから、専門ゼミナールで、学生さんが来るとのこと。ゼミに同席させてもらいました。ゼミ中は誰も意見を言わず沈黙が流れたり、データの解釈で盛り上がりつつありました。

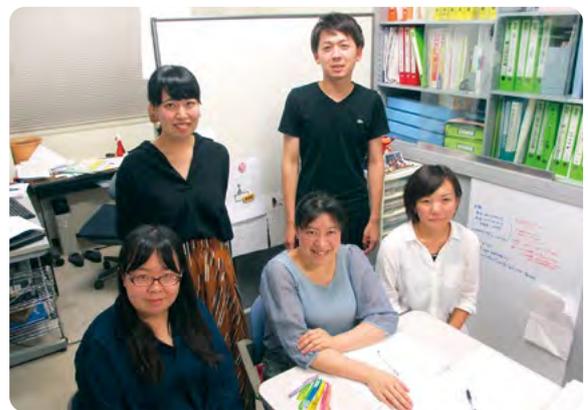
ゼミ終了後に学生さんにも、ゼミ生だからこそ知っている、とっておきの川野先生情報があるかを聞いてみました。

学生さんたちからは、ほかの先生の研究室と比べて、研究室のドアを開けるとすぐ先生の姿が見えるから在室を確認しやすい、ミーティングスペースが広い、看取りの本が図書館のように出てくる。そして、大量の本を青いバッグに入れて貸してくれた。といった情報が得られました。

ゼミ中の川野先生はどんな感じが聞いてみたところ、「はい、ホワイトボードに書いて～」が口癖だそうです。それから、たまにお菓子が出てくるんだそうです。以前、大量のポテトチップスをみんなで食べたそうですよ。カロリーオーバーだなあ～とか言いながらも。

学生さん、貴重な情報をありがとうございました。

最後になりましたが、川野先生の主な研究内容は、訪問看護に関するそうです。学生さんが看取りの本が大量にあると言っていたのですが、現在は在宅での看取りに関心があるそうです。在宅での看取りの他にも、訪問看護ステーションの経営や、教育、自宅で介護している家族への看護などを研究しているそうです。



以上で、川野研究室のレポートは終わりです。次回、どの先生の研究室にお邪魔するか、お楽しみに。

いきいきサロン

今年度の「いきいきサロン」は無事終了しました。延べ744名という多くの方々にご参加いただき、誠にありがとうございました。



第1回 5月18日 「温泉の楽しみ方と入浴法」

講師：温泉ソムリエ家元 遠間 和広 先生

温泉の泉質早見表等を使いながら、わかりやすく解説していただきました。



第2回 6月15日 「幸せに生きる医学」

講師：渡辺内科医院院長 渡辺 卓 先生

健康診断の意義や新しいがん早期発見に向けての技術について、多くのスライドを使いながら丁寧に解説していただきました。



第3回 7月20日 「せん妄をご存知ですか」

講師：新潟県立看護大学老年看護学 准教授 河原畑 尚美

ご自身の臨床経験を踏まえ、せん妄の意味、予防や改善に向けて今日からできることについてお話ししていただきました。



第4回 9月21日 「ケアマネジャーって何する人？どう付き合う？」

講師：上越地域医療センター病院 ソーシャルワーカー 宮川 玲 先生

ケアマネジャーの業務や、ケアマネジャーと気持ちよく付き合うためのポイントなどについてお話ししていただきました。



第5回 10月19日 「笑ってすこやかいきいき人生～4つの健康を目指しましょう～」

講師：笑いヨガティーチャー 渡辺 恭子 先生

笑うことで血液循環や社会的つながりが促進されることをお話しいただき、笑いのエクササイズをみんなで楽しく行いました。



第6回 11月16日 「最期まで自分らしく生きるために」

講師：新潟県立看護大学小児看護学 准教授 大久保 明子

看護師として、娘としての看取りの経験などを紹介されながら、人生の幕引きに向けた「生き方」についてお話ししていただきました。

来年度も引き続き「いきいきサロン」を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編集
後記

今号も無事に発行することができました。ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。第32号は「私の大学お気に入りスポット」と『研究室訪問』に力を入れました。手に取って読んでいただければ嬉しいです。

さて、『私の大学お気に入りスポット』の正解は下の通りです。当たりましたか？次号もお楽しみに。

(蓋)8:46765 (蓋8)0:47 (蓋0)7:47 (蓋8)7:47:55

入試・広報委員：石岡幸恵・川野英子

<http://www.niigata-cn.ac.jp/>

発行日：2018年1月11日